

2025年度 CLAIR 研修事業 実施概要

1. 研修事業の目的

インドネシア国ブンカリス県において、学童を対象にした ESD-環境教育・学習を継続的に実施することを目指し、これに必要とされる先駆的 ESD 指導者の育成研修の実施を本事業の目的とします。

2. 研修の概要

- (1) 研修名：インドネシア国リアウ州ブンカリス県における先駆的 ESD 指導者育成のための研修事業
- (2) 研修期間：2025年 8月22日(金)～9月3日(水)【現地出発から帰着まで13日間】
- (3) 研修員：インドネシア国リアウ州ブンカリス県に所在する NGO 法人セメスタの職員3名
- (4) 研修実施機関：自治体国際化協会(CLAIR)、宇部市、宇部環境国際協力協会(宇部アイカ)

3. 事業の全体計画

(1) 研修事業立案の経緯と相手国ニーズ

ブンカリス県とはこれまで JICA 草の根技術協力事業を、また 2023 年は CLAIR モデル事業「環境ヒーローの育成」研修を、今回と同様に NGO/セメスタ職員に対して実施し、現地の環境改善活動の進捗や今後の展開について協議を継続しています。セメスタによると、若者を対象にした個々の活動は進んでいるものの、地域の環境改善には次のような課題があると伝えてきました。「地域の生活環境は改善が進まず、持続可能な未来が望めない。水質の悪化、排水溝の詰まり、洪水の発生が頻発しており、その原因として家庭ごみやプラスチックごみの不適切な処理が挙げられる。日本の様な大規模焼却設備の導入はあり得ず、現実的な対策は住民の理解を深める啓発活動に始まり、適切なおみ分別の徹底、3R の実施になるが、大人世代の理解が進まず環境意識が浸透していないのが実情である。」こうした現状に加えて、今後は地域のごみ問題だけでなく、地球環境に配慮した意識と行動が重大課題であるとして再確認されました。

そこでセメスタは、宇部市の小中学校で実施されている ESD (持続可能な開発のための教育) 環境教育・学習を地域の学校に導入することで、子供たちに質の高い環境教育を提供し、新しい価値観に基づく行動変容を促すことが、長期的な観点から極めて重要であり有効であると考えました。これらを継続することで、環境第一の考え方が親世代の住民にも浸透し、受け入れられ、その結果として環境保全が自律的に維持される健全で持続可能な社会が実現する、というものです。こうした考えのもと、セメスタは宇部市に対して、ESD-環境教育・学習の普及のための指導者育成について支援を求めてきました。

(2) 本研修事業の位置付けと全体計画の概要

本研修は先駆的 ESD 指導者を育成することを目的としていますが、これは地域の学童を対象にした ESD-環境教育・学習を継続的に実施するための手段になります。即ち、先駆的 ESD 指導者の育成は以下に述べる全体計画の第1段階に相当し、第2段階以降は JICA 草の根技術協力事業として今後申請して実施する計画です。JICA 事業では ESD-環境教育・学習の現地普及のほか、親世代の啓発などにより、持続可能な地域社会を構築することを目標としますが、JICA 事業の採択と実施は長期的に取り組む必要があるため、段階的に事業を計画して進めます。

第1段階(本 CLAIR 事業)：現地の状況と課題を確認し、行政の理解を得て協力関係を構築します。宇部市が取り組む環境教育・学習のビジョンとカリキュラムを紹介し、先駆的 ESD 指導者を育成します。

第2段階(2026年 JICA 事業初年度内容として申請予定)：宇部市の ESD 環境教育・学習に関するビジョンやカリキュラムを紹介する本邦研修を実施し、現地の ESD 指導者を育成し増員します。並行して、現地に即した独自の環境教育・学習ビジョンとカリキュラムを策定するとし、これを支援します。

第3段階(JICA 事業2-3年次内容として申請予定)：策定した環境教育・学習のビジョンとカリキュラムに基づき、ESD-環境教育・学習の指導者が現地の学童や住民に対して普及啓発活動を展開します。宇部市は専門家を派遣してこれを指導、評価し、必要に応じて改善と継続の支援を行います。

4. 本研修プログラムの方針

(1) 宇部市の環境行政と SDGs の取り組み

宇部市はかつて深刻な公害問題を産官学民の協力で克服し、「宇部方式」と称される独自の公害対策が評価を受け、1997年に国連環境計画(UNEP)からグローバル500賞を授与されました。この受賞を機に、

宇部市は地球環境の保全を世界規模で貢献することを目指し、1998年に宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）を設立しました。以降、同協会は宇部市と協力し、海外からの研修員受け入れや環境国際セミナーの開催など、環境問題に関する活動を積極的に行っています。

その後、宇部市は2018年にSDGs未来都市の選定を受け、SDGsの達成に向けて持続可能なまちづくりを実現し、その取り組みを世界に向けて発信していくとしています。今回のセメスタの要請に対しても積極的に対応し、かつての産業公害を産官学民が連携して克服した宇部方式の時代を経て、これからは次世代を担う若者や学童に対してESDによる人財育成の機会を提供すること、これによって地球環境問題の解決につなげていくという新たな宇部方式の取り組みを紹介したいと考えています。

（2）プログラムの編成方針

初めに「宇部方式」の成り立ち、その考え方や手法を紹介し、この方式が世界中の環境問題解決に適用が可能であることを共有します。続いて、宇部市の地球温暖化対策、SDGs未来都市として市内の小中学校で実施している環境教育・学習の全体概要を座学で紹介します。

一般廃棄物（ごみ）については、分別・収集・再利用・焼却・埋立の各段階で、現場施設の見学と説明を行い、ごみ分別の現状と資源ごみのリサイクルを学び、「ごみ」と「資源」それぞれの流れを理解します。

宇部市と市民団体が小学校で実施している環境学習活動は、具体例を交えて紹介します。「ごみ分別ゲーム」の体験、動物の立場になって環境問題を考える「せかい！動物かんきょう会議」宇部メソッドの紹介講義と演習のほか、市内の小学校を訪問して出前授業を参観します。

研修員が帰国後に、ESD環境教育・学習カリキュラムの策定や教材の作成を実施することを想定して紹介します。

5. 研修プログラムの概要

研修は対面研修を基本とし、現場見学や体験をできるだけ取り込んだ講義と討議により構成しています。講師の説明は日本語で実施し、日本人通訳が逐次インドネシア語に翻訳します。

研修プログラムの項目内容は別紙の日程表を参照ください。

6. 研修の達成目標

（1）宇部市の「宇部方式」およびSDGs未来都市宇部における人財教育の考え方を理解し、先駆的ESD指導者の中核人材として自国現地（ブンカリス県）での持続可能な社会の構築を構想すること。

（2）宇部市が実施しているESD環境教育・学習を広く習得し、先駆的ESD指導者の中核人材として自国現地（ブンカリス県）の状況に則した独自のカリキュラムの策定を推進すること。

7. 研修実施体制及び運営

一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）が宇部市及び協働する宇部アイカに対して、自治体国際協力促進事業（モデル事業）として助成し、宇部市及び宇部アイカが研修事業を運営実施します。宇部市はCLAIRとの連絡窓口となり、宇部市が担当する研修の内容、講師の選定等を担当します。宇部アイカはセメスタとの連絡窓口となり研修員を受け入れ、宇部市以外の団体・企業等が担当する研修の依頼、調整等のほか、研修全般の運営、費用会計管理を担当します。

8. 研修受入れ及び講師依頼先（予定）

宇部市（市民環境部環境政策課、同廃棄物対策課、同環境保全センター施設課、総務部防災危機管理課、健康福祉部地域福祉課、総合政策部連携共創推進課）、山口県環境保全事業団宇部港東見初広域最終処分場、宇部市地球温暖化対策ネットワーク（UNCCA）、（株）オープンハウス、（株）ヌールエ、（一社）SDGsワークス、山口大学名誉教授

以上